6 月 2021

紹介：「ヒマラヤに呼ばれて」

児童文学作家による「ネパール人との深い交流」の体験を描いた長編ノンフィクション。

▼さとう・まきこ「ヒマラヤに呼ばれて―この世に偶然はない―」ヒカルランド，2018

著者は 1991 年，43 歳のとき，「な～んとなく」ネパールへトレッキングに出かけ，その自然と文化と，そしてとりわけ人に魅了されてしまう。

「ネパールの貧しい少年を母として見守ることになった筆者。マン［上記少年」をはじめとするネパール人との深い交流の中，筆者の生活や価値観は大きく変わっていく」（表紙キャプション）

このようなネパールとの関わり方は，ネパールに出かけたことのある日本人の多くにとって，著者ほど深くはないにせよ，多かれ少なかれ自ら身をもって体験したことであり，したがって本書を読むと，そのことが懐かしく，また時には自責の念に駆られつつ，思い起こされるにちがいない。

私の場合，初めてネパールに行ったのは著者のほんの数年前，ルートも，著者のその後の訪ネの際のものと合わせると重なる部分が多い。

ロイヤルネパール航空（RNA)――カトマンズ――ポカラ――フェディ――ダンプス――ランドルン――ガンドルン

本書を読んでいると，私自身の初の訪ネの際の途方もない当惑と驚きと感動の日々を追体験しているようであった。

(C)谷川昌幸

Written by Tanigawa 編集

2021/06/26 at 17:29

カテゴリー: ネパール, 社会, 自然, 教育, 文化, 旅行, 本

Tagged with ガンドルン, ダンプス, トレッキング, 教育支援

OneDrive か外付け HD か？

マイクロソフトが OneDrive を喧伝するので，つい魔が差し，インストールしてしまった。

まさに一瞬のこと，パソコンのファイル構成が根本から勝手に変更されてしまった。しかも，ホームページ用ファイルについては，リンクまで書き換えられた（他ソフト介在かもしれないが）。もう，お手上げ。

パソコンは全くの素人で，だからこそもっとも単純明快なファイル構成にしてきた。大切なファイルは，外付けハードディスクにその都度保存。手間はかかるが，ファイル構成や所在がすぐ分かり，混乱はなかった。

ところが，OneDrive をインストールし同期させたとたん，大混乱，どのファイルが，どこにあるやら，見当もつかなくなった。

これは大変と，OneDrive との同期を切断したが，どうやら元には戻らないらしい。これまで使用してきた外付けハードディスクですら，同期切断状態では認識困難になってしまった。

素人の希望的観測にすぎないが，OneDrive との同期を切断したまま使用し続ければ，そのうち少しずつファイル構成が同期以前の状態に自動修正されていくのかもしれない。が，たとえそうだとしても，不便この上ない。

このところの情報技術の進歩は，OneDrive に見られるように，目覚ましい。便利になった反面，素人には，情報がたとえ自分のものであっても自分ではコントロールしきれなくなってきた。先日も，10 年以上，いや多分 20 年位前の知人のデータが，「お友だちでは？」と画面に出てきて，びっくり仰天。インターネット上か，ネット接続の誰かのパソコンに保存されていて，何かのきっかけで蘇り，私に通知されたのだろう。本人は知る由もない。

いまや，人間関係だけでなく，読書や趣味や衣食住の好みなど，たいていのことは，ネットの方が，本人よりも，よく知っている。そんな時代になったのだ。

このネット時代に，外付けの独立ハードディスクに情報保存し続ける人は，石貨をため込む現代の古代人と見られても致し方あるまい。やれやれ。

(c) 谷川昌幸

Written by Tanigawa 編集

2021/06/11 at 17:33

カテゴリー: 社会, 情報_IT

Tagged with ネット, プライバシー, IT, 個人情報

ネパールのコロナ感染 60 万人突破，都市部から地方へ

ネパールの新型コロナ(COVID-19)感染者累計が6月8日，とうとう60万人を超えてしまった。日本の76万人よりは少ないが，人口当たりにするとネパールは日本の3倍以上になる。深刻だ。

しかも，このところネパールのコロナ感染は，都市部から地方へと移りつつある。カトマンズなどの都市部では，ロックダウンをはじめとする強力な規制や感染防止キャンペーンの強化，さらには感染者の早期発見・隔離が，問題は多々あれ，徐々に効果を発揮し，新規感染は緩やかに減少し始めた。また，不幸にして感染しても，都市部では，不十分とはいえ医療体制が，地方に比べればはるかに整っている。

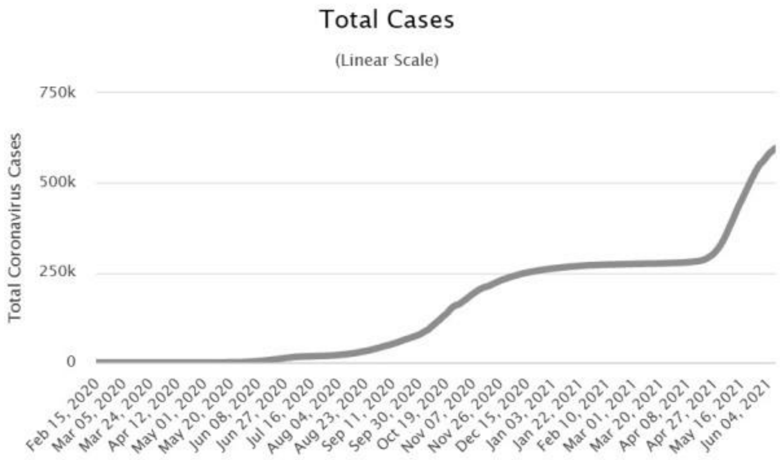
これに対し，情報も医療体制も不備の地方では，インドや都市部から持ち込まれたコロナ・ウィルスが一気に拡大し始めた。

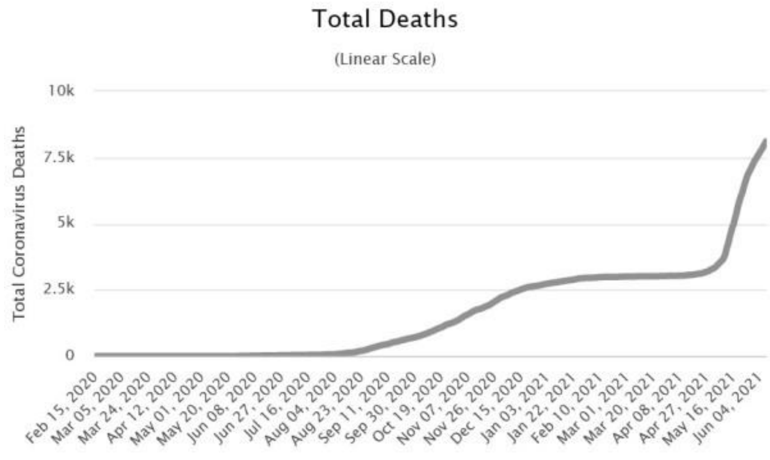
「ネパールでは，平野から山地へウィルスが登ってきている。*5」「カトマンズ盆地では感染のピークを過ぎたように見えるが，周辺の諸郡ではこの1週間で感染が急増している。この1週間で，マクワンプルの1日当たり感染者数は 17 人から 101 人へ，ダディンでは 85 人から 342 人へと急増した。*5」
・ガンダキ州： 293 人(5 月 17 日)⇒1159 人(5 月 27 日)
・ゴルカ郡： 23 人(5 月 17 日)⇒500 人(5 月 27 日)
・バルパク村(標高 1900m)： 5 月後半の2週間で 12 人死亡
・カンチェンジュンガ・グンサ村(標高 3200m)： 40 家族のいずれも家族1人以上感染
・マナン村(標高 3200m)： 感染者がでた。(*5)
このように，地方でコロナ感染が急拡大していることは確かだが，その実態は十分には明らかではない。

「村々では，検査は十分ではなく，誰も感染拡大の実情をよく知らない。医者たちは，そのうち地方でおびただしい犠牲者が出るのではないかと警告している。*1」

村々では，そもそも検査が不十分だし，たとえ感染が分かっても，知識不足のため，あるいは生活のためやむなく，また医療体制不備のため，感染村民たちが出歩いている。そのため村民の 80%が感染している村さえあるという*1,4,8）。

このように，ネパールでは，コロナ・ウィルスが流行地の外国や都市部から地方に持ち込まれ，そこで感染が急拡大していることは確かなようだ。ネパールの地方の実情を考えると，憂慮に堪えない。





■worldometer / nepal

*1 Arjun Poudel, “Even as virus reaches rural Nepal, results of PCR tests take up to five days,” Kathmandu Post, June 8, 2021

*2 “With 3,370 new cases, Nepal’s Covid-19 tally reaches 591,494,” Kathmandu Post, June 7, 2021

*3 Sagar Budhathoki, “Covid-19 Nepal: Villages are turning into hotspots. What should the govt do now?,” english.onlinekhabar.com, June 7, 2021

*4 “COVID-19 raging in rural areas,” Himalayan, Jun 06, 2021
*5 “In Nepal, virus climbs from plains to mountains,” Nepali Times, May 28, 2021
*6 Suresh Bidari, “Covid-19 Nepal: This Parsa village has several cases, but no one is isolated,” english.onlinekhabar.com, May 21, 2021
*7 Rastriya Samachar Samiti, “Coronavirus spreads in Humla’s five rural municipalities,” Himalayan, May 18, 2021
*8 Arjun Poudel, “Fewer tests mean reported cases in rural Nepal could just be tip of the iceberg,” Kathmandu Post, May 17, 2021
*9 Masta KC, “Rural Nepal fights back Covid-19,” Nepali Times, May 17, 2021
*10 Priti Thapa, “At the Covid-19 frontlines in rural Nepal,” Nepali Times, May 9, 2021

(C) 谷川昌幸

Written by Tanigawa 編集

2021/06/09 at 17:20

カテゴリー: 社会, 健康

Tagged with コロナ, ロックダウン, Covid

コロナ禍からの漠たる未来不安

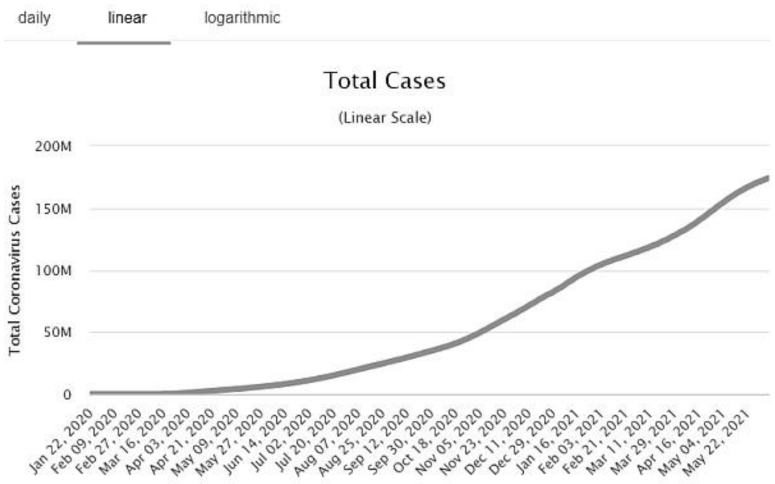
昨夕，新型コロナ（COVID 19）ワクチンを接種してもらった。1回目。しばらくすると，左腕の接種部分付近がしびれ始め，夜になると，鈍痛が左腕全体に広がってきた。

左腕の鈍痛だけではない。身体が注入された異物（ワクチン）を攻撃し始めたのか，ほてった感じで，いつまでも眠くならない。とうとう，一睡もしないまま，朝になってしまった。

ワクチンを接種してもらった左腕の鈍痛は，今日の午後になって，さらにひどくなった。このへんがピークだとは思うが，さていつまで続くやら‥‥。

それにしても，このような自然界にはない人造ワクチンを世界中の 80 億もの人々の相当数——理想的には全員——に接種しなければ，コロナ流行が止められないとは，なんたる恐ろしい，SF が現実化したような時代になってしまったものか。

▼**世界のコロナ感染者累計（人）**



むろん，新型コロナのような感染症の大流行そのものについては，公衆衛生をはじめ様々な分野で研究がすすめられ，効果的な予防法や治療法が見つけられ，そのつど制圧されるであろう。

私も，何よりも死を恐れる人間の一人として，それを願ってやまないが，その一方，まったくの素人ながら，コロナ大流行のような現象の繰り返しは，要するに，人類が増えすぎたからではないか，という素朴な疑問を禁じ得ない。

他の動物や植物であれば，増加しても，自然の許容量を超えそうになれば，必ず何らかの自然的規制が働き，許容範囲内に戻る。非情だが，それが自然の摂理。

ところが，人間は，他の動植物の有しない知恵により，自然を科学的に観察し，人為的にそれを制御したり改変したりできるようになった。これにより，人間増殖の自然的な限界は，次々と取り払われてきたのである。

その結果，いまやどこに行っても，たいてい人間がいる。逆に，以前はそこにいた様々な動植物たちは次々と姿を消している。人間は，その知恵により自然を征服しつつある。

新型コロナの流行も，多数説のウィルス自然由来説（コウモリ等からの感染）をとるなら，とめどもなく増殖する人間に対する自然界からの自然な規制である。ところが，これに対し人間は，身体に人造ワクチンを入れることにより，その自然の人口増殖規制を人為的に無効化しようとしている。この人為による自然の克服は，以前の他の感染症流行の場合と同様，今回のコロナ・パンデミックに対しても，すでに大きな効果を発揮し始めている。

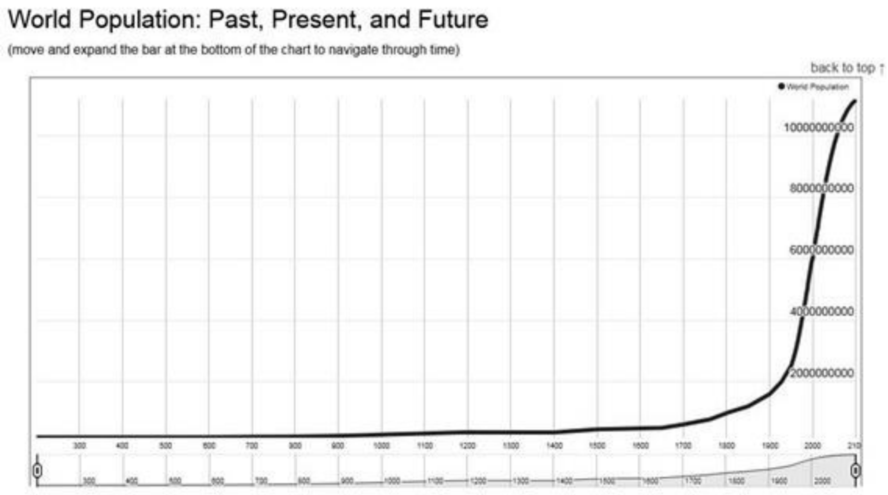
しかしながら，たとえ今回の新型コロナが予防ワクチンにより制圧できたとしても，自然の側は，おそらく次のウィルスか他の何らかのものにより増えすぎた人類に立ち向かわせるであろう。これに対し，人間の側もまた別の新たな人造ワクチンか何かで迎え撃つ‥‥。こうして人間の自然な身体と生活は，一歩一歩，確実に自然から離れ，人造化されていく。**サイボウーグ化**だ。

また，人類の一部は，許容量を超えた地球を離れ，月や火星など，他の天体に移住し始めることにさえなるだろう。

以上は，もちろん全くの素人の極論である。また，人口論は，古来，もっとも危険な取り扱い要注意の議論である。が，それはそうだとしても，コロナ・パンデミックに脅え，予防ワクチンの副作用（副反応）に現に苦しめられていると，ついそんな暗い未来を思い浮かべてしまう。

杞憂にすぎないとよいのだが。

▼地球は何人の人間を維持できるか？　すでに限界超過なら，何が起きるか？



(C)谷川昌幸

Written by Tanigawa 編集

2021/06/07 at 19:36

カテゴリー: 自然, 健康, 文化

Tagged with ウィルス, コロナ, サイボーグ, Covid, 自然, 感染症, 人為, 人口

Under Control ― オリ首相と安倍首相

1. オリ首相の「under control」発言

ネパールのオリ首相が5月8日，CNN インタビューにおいて，コロナ対策について問われ，こう答えた―

「ネパールでも，むろん他のいくつかの国々と同様，パンデミック（感染爆発）が広がっている。が，ネパールでは，コロナ（コビド 19）感染は，いまのところ『under control（コントロール下，制御下）』と見るべきだ。*1」

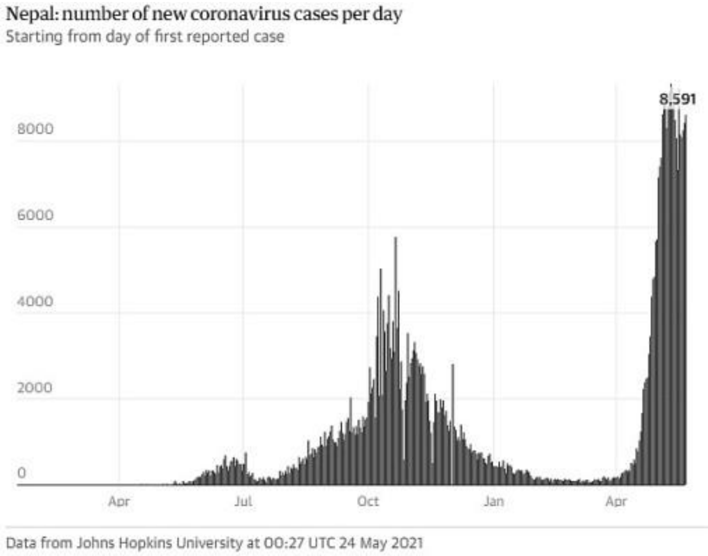
「昨年，われわれは感染を under control の状態にしていた。感染死はゼロになった。新規感染は 1 日当たり 50 人以下だった。ところが，一般民衆は，パンデミックはもう終わり心配するほどではない，と考えてしまった。それが，コロナ感染の第2波を引き起こしたのだ。‥‥われわれは，感染を under control の状態に置くため，全力をあげてきた。*2」

このオリ首相の「under control」発言は，首相報道補佐官ツイッターにも投稿され，一挙に拡散された*3。

■首相報道補佐官ツイッター，2021/05/08

2.「out of control」の現実

このように，オリ首相は CNN インタビューにおいて，コロナ感染は「under control」と強気で語ったが，実際にはこの頃，ネパールでも「感染が激増，病院ではベッドも酸素も不足し，事態はコントロール不能(out of control)の状態」になっていた*4。



■The Guardian，2021/04/30

ネット版 National Geographic によれば，「ネパールではコビド 19 がコントロール不能(out of control)の状態で拡大」をしており，「いまや救急病棟は満員」，「死亡率も隣国インドより高くなっている」。しかも，保健所によれば，感染者数は，政府発表よりも実際にははるかに多い。スター病院のコロナ担当者は，「いまは戦争のような状態だ」とさえ語っている*5。

コロナ感染は，政官界にも及んでいる。オリ首相の「under control」発言インタビューをツイッターに投稿した報道補佐官自身でさえ，投稿日の夕方，感染が判明。他に，オリ首相秘書官数名，大臣２名を含む国会議員２６名，議会事務官１９人など，多くが感染している。

３．首相「under control」発言への猛反発

こうした状況を見れば，ネパールのコロナ感染状況は危機的と言わざるをえない。にもかかわらず，オリ首相は，「under control」と CNN を通して世界に向け宣言してしまった。
この発言には，当然ながら，ごうごうたる非難の声が上がり，一挙に拡大した。たとえば，ボジラジ・ポカレル元選管委員長は，「オリは，国際社会に向け，現状を隠し事態はコントロール下(under control)と語るのではなく，ネパールが現に直面している現実を正確に語るべきだった」と批判している*1。

非難はもっとも至極である。では，なぜオリ首相は，どう見ても無理であるにもかかわらず，このようなことを強気で断言してしまったのか？

４．政治も「out of control」状態

オリ首相は，対印外交でも内政でも，強硬なナショナリストであった。2018 年 2 月の政権発足後 2 年ほどは，その政策があつれきは多々あれ，与党共産党が下院絶対多数を握っていたこともあり，結果的には成功しているように見えていた。
ところが，政権発足 2 年を過ぎると，ネパール共産党内のオリ派と反オリ派の対立が激化し始める一方，対印関係もカラパニ領有権をめぐり悪化していった。

こうして政権維持に不安を感じ始めたオリ首相は，強行突破を図るべく，2020 年 12 月，突然，下院を解散してしまった。しかし，この解散はあまりにも強引であり，最高裁で 2021 年2月違憲とされ，議会は再開された。そして，この再開議会において 2021 年 5 月，オリ首相は，信任案が否決され，辞任を迫られた。ところが，反オリ派の方も首相選出に必要な多数派を形成できなかったのをみて，オリ首相は，バンダリ大統領に助言しオリを首相に任命させてしまった。こうして再任されたオリ首相は，またもや強引に議会を解散，半年後の 2021 年 11 月に選挙を実施することにしたのである。

この半年余のネパール議会政治は，まさにドタバタ，憲法上の根本的な疑義も多々指摘されている。文字通り「out of control」と批判されても致し方あるまい。

そこにコロナ感染第２波が押し寄せてきた。オリ首相は，コロナ対策でも窮地に追い詰められた。もしこれを「out of control」と認めてしまえば，議会政治の事実上の「out of control」のダメ押しとなり，政

権維持が一層困難になる。そこで，オリ首相は CNN インタビューで，つい，コロナ感染は「under control」と口走ってしまった，ということではないだろうか。状況からは，そう推測される。

5. 日本英語の「under control」

それと，もう一つ。この CNN インタビューでの「under control」発言のとき，オリ首相は，とっさに日本英語での用法を思い浮かべ，それに習ったのではないかという推測。いまのところ証拠は何一つないが，興味深い仮説ではある。
周知のように，日本英語の「under control」は，安倍晋三議員が首相であったとき，オリンピック東京招致のため世界に向け発信した，最も基本的で重要な英語キーワードであった。

2013 年 9 月，安倍首相はオリンピック招致のためブエノスアイレスでの IOC 総会に出かけ，英語（米語）で，東京開催の安全性をアピールした（「皇室利用と日本語放棄で五輪を買った安倍首相：”under control”のウソ公言」ネパール評論 2013/09/13）*6。
“Some may have concerns about Fukushima. Let me assure you, the situation is under control. It has never done and will never do any damage to Tokyo.” 「フクシマについて、お案じの向きには、私から保証をいたします。状況は、統御されています。東京には、いかなる悪影響にしろ、これまで及ぼしたことはなく、今後とも、及ぼすことはありません。」（首相官邸 HP *8）
しかしながら，福島原発が 2013 年 9 月時点で「under control（統御されている）」状態とはほど遠かったことは，明らかだ。現在に至っても，燃料デブリや増加し続ける汚染水など，多くのものの処理が先送りされており，とうてい「under control」などとは言えない状況である。

ところが，それにもかかわらず，安倍首相は被災福島原発を「under control」と説明し，オリンピック招致に成功，以後，日本政府もこれを基本方針として継承してきた。すなわち，日本政府公認の日本英語では，被災福島原発のような状況をもって「under control」と言い表すことになったのである。

この日本英語の「under control」は，東京オリンピック開催問題や福島原発事故が議論されるとき，しばしば言及され，世界的に有名となり，日本英語の語義として定着していった。

6. オリ首相「under control」は日本英語？

さて，そこで問題は，オリ首相の「under control」。ネパールは日本と親密な関係にあり，ネパールの人々が日本英語をマスターしていて，何ら不思議ではない。そして，そうしたネパールの人々であれば，この半年余のネパールのコロナ感染状況や政治状況を「under control」と呼ぶことに，さほど躊躇することもあるまい。福島の被災原発がコントロールされているのと同じように，ネパールのコロナも政治も，多少問題はあれ，ちゃんとコントロールされているではないか，と。
では，オリ首相自身は，どうであったのか？　与党分裂とコロナ感染拡大とで切羽詰まって，英米英語の意味で「under control」と口走ってしまったのか？　それとも，日本に学び，日本英語の意味で「under control」と説明してしまったのか？　いまのところ，私には，いずれとも判断できない。機会があれば，どなたかにお教えを請いたいと思っている。

7. 誤魔化しよりましな自覚的変更

それともう一つ，「under control」との関連で注目すべきは，ネパールの政治家たちの状況適応力の高さである。彼らの多くは，状況の変化に応じて融通無碍に自分にとって最も有利と思われる方に立場を変えていく。無定見，無原則と見えるかもしれないが，少なくとも現実政治の場では，いったん始めたら状況がいかに変わろうが修正困難な「武士に二言なし」型・「インパール作戦」型の日本の政治家たちよりはましである。

オリ首相も，CNN インタビュー後，「under control」発言に猛反発されると，そのわずか2日後，The Guardian に，"Nepal is being overwhelmed by Covid. We need help"とタイトルをつけたメッセージを寄せ，先の発言を事実上，全面的に撤回してしまった（タイトルが首相自身のものかは不明）。「ネパールはコロナに席巻され圧倒されている（overwhelmed）」というのだ*8。

■首相報道補佐官ツイッター，2021/05/10

「under control」でないとも，「out of control」だとも言っていないが，事実上，同じとみてよいだろう。文字通り，豹変。だが，オリ首相は，コントロール下でないのにコントロール下と強弁し誤魔化し続ける日本英語式の「under control」に逃げ込むことをせず，ネパールのコロナ感染状況は英米英語でいう「under control」ではないことを，はっきりと認めた。誤りを誤りと認め，方針転換する。この方が，外国語の語義まで勝手に変えて現実を隠蔽し続けるよりも，はるかに危険が少なく，よりましな政治とはいえるであろう。

このところ日本政治における言葉の軽視は，目に余る，議論はまるで成り立たず。詭弁，誤魔化し，繰り返し，無視等々に明け暮れる。少しはネパールの政治家たちの真剣な議論を見習うべきではないか。

*1 Oli's virus 'situation under control' remark meets with criticism, Kathmandu Post, 2021/05/09

*2 Pandemic is Under Control: PM Oli, Newbussinessage, 2021/05/09

*3 首相報道補佐官ツイッター, 2021/05/08
*4 Nepal facing deadly Covid wave similar to India, doctors warn, 'Situation is out of control' as cases spike and hospitals run short of beds and oxygen, The Guardian, 2021/04/30
*5 COVID-19 spirals out of control in Nepal: 'Every emergency room is full now', National Geographic, 2021/05/12
*6「皇室利用と日本語放棄で五輪を買った安倍首相:"under control"のウソ公言」ネパール評論, 2013/09/13
*7「IOC総会における安倍総理プレゼンテーション」2013 年 9 月 7 日
*8 KP Sharma Oli, "Nepal is being overwhelmed by Covid. We need help," The Gurdian, 2021/05/10

(C)谷川昌幸

Written by Tanigawa 編集

2021/06/02 at 14:32

カテゴリー: 言語, 健康, 政治

Tagged with オリ, オリンピック, コロナ, パンデミック, Covid, 福島原発, 英語, 解散, Oli, under control, 安倍晋三, 不信任